

花うさぎの「世界は腹黒い」2

日本が普通の国になるように。
産経新聞を応援しています。

小泉構造改革路線は失敗だった！西田昌司

(2011/11/23) 1/2

(<http://hاناusagi2.iza.ne.jp/blog/entry/2518362/>)

西田昌司議員の「保守誕生 日本を陥没から救え」

**貿易自由化は利点ナシ！内需拡大
でデフレ退治が重要、財政出動を！**

花うさぎ 2

検索

<http://hاناusagi2.iza.ne.jp/blog/>

TPPに関して小泉進次郎議員の発言「参加表明は遅すぎた！」を繰り返し紹介したり、いまだ意見集約の出来ない自民党を非難する報道、つまり分断工作がここに来て目立っています。今回のTPP問題を契機に、「日本軍=いわゆる保守陣営」は真っ二つに分断されてしまったかのような印象すら受けます。これは保守陣営で圧倒的な評価を受けてきた識者でも同じですから問題は深刻です。こんな最低最悪の野田政権下で日本の運命を決める極めつけの交渉など任せられる筈がありません。

現時点では、国会議員は与党野党とも意見は二分され、報道は中央マスメディアはこぞって推進派。逆にローカルメディアやインターネット世論は完全に反対派です。地方議会は44都道府県で慎重あるいは反対決議、世界市場で展開する企業集団の財界は推進、農協など主に国内市場がメインの業種業界は反対です。

いまの推進派の論調を聞いてみると、日本という国柄を否定し、何でもかんでも自由貿易、関税・非関税障壁を取り除き、世界は一つ、地球国家と地球市民でも創るつもりか？と思うことが度々あります。新自由主義・市場原理主義はリーマンショックで明確に破綻し否定された筈なのに、この反省がない。国内的には小泉構造改革路線に対する総括が出来ていない。これが原因のような気がします。

こうした中で、非常に明確な主張を発信し続けている政治家が西田昌司氏です。国会の場での追求だけでなく、雑誌への投稿、超人大陸やビデオレターでの情報発信等々、他の国会議員を圧倒するパワーで存在感を高めています。その超人大陸最新版と田中康夫氏の番組に出演した動画がアップされましたので貼りつけました。

また、この際、氏の主張を更に理解してもらおうと、昨年春に出版された氏の著書「保守誕生 日本を陥没から救え」から、関係部分をピックアップして以下に収録します。長文になりましたので、お時間のあるときにでもご覧ください。本日はまたまたしつこく「西田昌司スペシャル」をお届けします。「日米同盟は死活的に重要だ。しかしもっと大事なことがある。それは日本だ！」という気持ちです。

保守誕生—日本を陥没から救え

日本自壊！真性保守主義が救い出す 西田昌司
構造改革とは

構造改革とは、一言で言えば官の仕事減らし、予算規模を少なくし、小さな政府をつくることです。小さな政府は減税に繋がります。それにより民間にお金まわり、それを民間が一番効率のよいところに使えばいい。そのことによって消費が促進され、景気が回復するというふうに当時は皆が考えたのです。官から民へ、そして無駄をなくして小さな政府をつくる。その一番の象徴が郵政民営化であり、小泉総理だったわけです。

しかし、この政策は結局のところ失敗だったと私は思っています。それは、平成十九年の参議院選挙での大敗北、そして、平成二十一年八月の衆議院選挙での大敗北が如実に証明しています。自民党が下野することになった一番の原因は、こういった構造改革路線が結局は国民に否定されたものだと私は理解しています。(中略)

イデオロギー対立は終わり、アメリカ一辺倒の時代に

そんな中、自民党にとっての救世主が現れた、それが小泉首相でした。小泉首相は、「自民党をぶっ潰す」をスローガンに自民党総裁になり、総理大臣にられました。そして、



その公約通り、自民党がぶっ壊れてしまったわけです。小泉さんは、今や議論をしている場合ではない、もう方向は決まっているのだ、あとはやるだけだと、こういう言い方もされました。

マスコミも与党も野党も識者も全て人間が構造改革しかないと言っているのだから、あとはやるだけなのだ、反対するものがあればそれは全て抵抗勢力である、それを切り捨てていく、それが自分の使命だと言わんばかりに改革を次々に行ってきたわけです。(中略)

自民党は負けるべくして負けた

しかし、その改革の結果がどうであったかということは、皆さんご存じの通りです。結局は、勝ち組負け組というもののはっきり出てきて格差社会をつくり出したということです。そして、その結果、一部の企業が勝ち組となり、多くの企業が負け組となってしまいました。そして、都市で言えば、首都圏が勝ち組となり、その他は負け組となってしまいました。

そして、その勝ち組負け組いずれにおいても、果てしない競争のために国民は非常に大きなストレスを感じるようになりました。かつては、日本中のほとんどの方が中流意識を持ち、自分は中の上だと感じていた均質な時代、つまり誰もが幸せを感じる社会から、誰もが幸せを感じられない、不満と不安を感じる時代になってしまったわけです。

そして、それをつくったのも結局は自民党であったわけです。したがって、今回の選挙で自民党は負けるべくして負けた。自民党が与党であり、構造改革をやり続ければ負けざるをえなかったと私は思っています。



リーマン・ショックは構造改革の失敗を証明している

なぜならそれは、リーマン・ショックと同じことだからです。リーマン・ショックは、その原因がいわゆるサブプライムローンにあったことは周知のことです。本来、家を買えない低所得者にお金を融資して家を購入させる。銀行は、リスクが高い分、高い利息を頂戴するので儲かる。不動産業者も今まで以上に家が売れて儲かる。低所得者も家が持てて喜ぶ。

こんな話にのせられてアメリカに不動産バブルの花が咲いたのです。銀行団は、こうしたリスクの高いサブプライムローンを証券化して世界中にばらまき、巨額の資金を集めたのです。まさに投資効率のよい儲け話に世界中から資金が投資されたのです。しかし、それもつかの間、本来低所得者にローンの返済能力はありません。貸し倒れがある一定の水準を超えると不動産投資はたちまち不良債権となり、それが全世界の証券市場に波及していきました。

そして、その代表格であったリーマン・ブラザーズは倒産してしまうのです。まさに、官から民にお金をまわして民間の望むところにお金を投資する仕組みばかりをつくりすぎると、結局は世界中でバブルを生み、経済破綻を起こすということです。これはリーマン・ショックの一番の教訓ですが、もうひとつ日本が教訓とすべきことは、日本のような高度経済成長を終え、低成長路線に入るとその国の富は、間違いなく海外へ流出するという点なのです。

構造改革は国内を空洞化させる

低成長時代になり、国境の垣根がなくなると、お金は間違いなく投資効率のよい海外に流れます。中国やインドをはじめとする新興国にお金がかんどん投資され、工場が建てられ、そこでたくさんの車や電化製品がつくられ、売られていくことになります。企業にとっては売り上げが伸び、利益も上がります。国内よりもむしろ海外に投資するほうが、利益は上がるわけです。



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画
マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見！
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り～伝えよう日本のあゆみ～」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

わからない事は
調べましょう！

検索

iza プログランキング
【全体】4位 【政治】1位
(2011年10月8日時点)

花うさぎの「世界は腹黒い」2

日本が普通の国になるように。
産経新聞を応援しています。

小泉構造改革路線は失敗だった！西田昌司

(2011/11/23) 2/2

<http://hanausagi2.iza.ne.jp/blog/entry/2518362/>

西田昌司議員の「保守誕生 日本を陥没から救え」

貿易自由化は利点ナシ！内需拡大
でデフレ退治が重要、財政出動を！

花うさぎ 2

検索

<http://hanausagi2.iza.ne.jp/blog/>

そして現実には、海外から多くの配当が日本に還元されています。そういう意味では、海外・国内にこだわることなく事業展開するのは企業にとっては正しい選択と言えるでしょう。しかし、日本人、国民にとってはどうなのでしょう。企業が大きくなって発展しても、工場が国内で閉鎖されて海外でつくられてしまえば、国内で雇用がなくなってしまうわけです。

実は、日本が直面している問題は、まさにこうした雇用が海外に出てしまうという経済の空洞化の問題なのです。この問題に対応するためには、官から民へという発想では解決できないのは自明の理であります。民間にお金をまわしておく、当然のことながら投資効率のよい海外にしかお金がいかないからです。

政府事業創出が空洞化を食い止める

そこで取るべき政策は、官の支出を増やしていくこととあります。官の支出を増やすためには、当然のことながら、予算を大きく伸ばさなければなりません。

そのためには当然財源が必要となってきます。基本的には増税をして、国民負担率を上げるということが必要になるかと思えます。しかし、現在のような非常に厳しい経済の状況下では、増税することはかえって経済に対してマイナス影響を与えますので、当分の間は赤字国債、建設国債を含めた公債を発行して財源をつくり出していく以外に方法はないでしょう。

そして、官の刺激によって雇用を創出し、新しい事業、例えば、省エネ型の社会をつくっていくこともそうですし、農業生産をもっと効率化して、四割を切っている食糧自給率をできるだけ伸ばしていき、早急に五割を超え、近い将来は六割七割に、といった路線を取ることも当然必要であります。

いずれにしても、増税をするか公債を発行して、市場からお金を国のほうへ吸収し、それを、国内へ再投資していく。国や地方公共団体が積極的に予算を計上し、雇用や新たな事業をつくり出す方向にお金を出していくということは、理にかなっているのです。



空洞化を助長する民主党の政策

ところが今、民主党は全く逆のことをしているのです。コンクリートから人へ、そして直接家計に支援をすることは、確かに個々の家庭では喜ばれるでしょう。けれども、今のような経済状況の下では、出したお金がどれだけ消費にまわされるでしょうか。それは借金返済にまわったり、先行きの不安に備えての貯蓄にまわったり、結局は政府がせっかく借金をして子ども手当や、様々な家庭に対する支援を行っても、消費にまわらず、家計の中に死蔵されてしまうのは容易に考えられることです。

一方、政府が直接事業を行って雇用を刺激する政策をしていくとすると、どうでしょうか。それにより間違いなく、事業をされている方にお金がまわるわけです。そこでお金が循環します。そこでまた、新たな雇用を生み、その雇用が生まれる中で消費が生まれてくる。また、仕入れ先に対しても仕事が与えられるわけですから、お金がまた循環する。つまり、何倍もお金が回転するわけです。明らかにこちらのほうが正しいのではないのでしょうか。

ところが、民主党政権は最初からこうした政策を否定しているのです。官から民にお金をまわすことが正しいと信じ込んでいます。その原因は平成になってから世界中で言われたことですが、アメリカ型の社会に追随していくことがこれからの流れなのだという思い込みが、ずっと今日まで続いているからです。

なぜ、日本はアメリカに傾倒するのか

それにしても、日本がなぜこれほどまでにグローバリズムに巻き込まれ、アメリカ型の社会に追随をするのでしょうか。それは間違いなく、戦後の占領政策によって日本の価値観が徹底的にアメリカナイズされてきたことの影響でしょう。それが冷戦終焉後、その勝者がアメリカだということとさらに一層拍車がかかったということです。

そしてこのことを与野党、マスコミも知識人もほとんど議論がないまま、それを受け入れてきてしまったのです。私はここに一番大きな問題があると思います。その原因は、戦後の日米安全保障体制の下、国の自立や国柄を守るということをお忘れ、アメリカの要求、要望に対して無条件で受け入れてきたという他の国にはない状況にあったと思います。(以下略、ジョルダンブックス「保守誕生」P158-P172より抜粋)

花時計が「やまと新聞TPP号外」配布イベント
15人が参加、90分で5千部を池袋で配った！



次々と号外を受け取る池袋の人々

18日からスタートした「やまと新聞・TPP号外」配布キャンペーンは、20日までの

三日間で大半が消化されたと思われるが、愛国女性の集い・花時計は22日、池袋のパルコ前でこの配布イベントを実施、呼びかけに集まった15人の有志が90分で5000部のやまと新聞TPP号外を道ゆく人々に手渡した。



パス待ちの時間を利用して記事を読む人も

この日は当初の参加表明が6人の状態で、準備した1000部を配布予定だったが、午後

一時半から人通りの多いJR池袋駅出口のパルコ前で配布をはじめたところ、やまと新聞のスタッフも三人が4000部を持ち込んで協力。その後情報を聞いた有志が次々と応援に駆けつけ、ピークには17人が大きな声で「TPPの号外です～」と叫びながら配布していた。



お疲れ様でした。参加した有志で最後の記念撮影。

中には生後二ヶ月から三歳までの赤ちゃんや子ども連れのママさんも訪れて配布に協力、受け取った号外を

拡げて記事を読む人々の姿がアチコチで見られた。

なお、花時計では、ジャーナリストの山際澄夫氏の呼びかけに呼応して、大震災の被災地・南三陸町への救援物資を五回にわたって実施しているが、クリスマスから正月に掛けての物資購入資金が不足しており、引き続き有志の協力をHPで呼びかけている。

花時計HP：被災地支援ご協力のお願（一口500円から）
<http://www.hanadokei2010.com/hisaichi.php>

*写真・動画・イベント情報・関連リンク先などは是非、ブログにてご覧下さい！



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画
マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見！
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り～伝えよう日本のあゆみ～」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

わからない事は
調べましょう！

検索

iza プログランキング
【全体】4位 【政治】1位
(2011年10月8日時点)